

第3期福津市地域福祉計画・第2期福津市地域福祉活動計画 市民意見公募による意見・回答表

NO	提出された意見（概要）	市（実施機関）の考え方
1	<p>1－①表紙タイトルについて 表紙タイトルは「第3期福津市地域福祉計画・第2期地域福祉活動計画」とし、策定団体も「福津市・社会福祉法人 社会福祉協議会」とすべきでは。</p>	<p>① 表紙タイトルと策定団体名の配置は、そのままとします。58ページ1行目は「第2期福津市地域福祉計画・福津市地域福祉活動計画」に修正します。</p>
2	<p>2－①全体について 前計画と大幅に目次をはじめ文章内容・表現が異なっており、まるで新しい計画のように感じる。</p> <p>2－②前計画の検証記述について 前計画の検証記述が見当たらないのはなぜか。前計画の全体的な検証により反省点や積み残し、新たな課題への取り組みを次期計画に活かすべきであり、そのページがないのは計画の継続性から見ていかがなものか。</p>	<p>① 根拠法となる社会福祉法の地域福祉計画の条文が大きく変更になり、改めて体系の見直しを行いました。 また、分野別計画と重複するものがあつたため、分野別計画で推進すべきものは分野別計画で確認していくこととしました。</p> <p>② 社会福祉法の改正により地域福祉計画が福祉分野の関連計画の上位となったため、前期計画の検証は福祉分野の関連計画に委ねることとし、本計画での検証記述は省略しています。 また、前計画の検証結果は福祉分野の関連計画に反映されています。</p>
3	<p>3－① 5ページの自助と共助と公助の相関図での矢印の意味が分からない。3つの円の「助の説明文」も、自助は「自分や家族でできることは自分で」、互助・共助は「地域や隣近所のできることは地域で」、公助は「個人・家族や地域で」のような表現にした方が分かりやすいのではないか。また、3つの円で表さず、前計画の図表示のままが良いのでは。</p>	<p>① 5ページの相関図で、中心に向けた矢印は、分かりづらいので、削除します。 外側の矢印は、「自助」、「互助・共助」、「公助」が互いに連携することをイメージしており、また、それぞれの説明は地域福祉の視点としていますので、そのままとします。</p>

4	<p>4-① 18ページの高齢者世帯の状況のグラフが分かりにくい。「高齢者世帯」の数字が「うち独居世帯」の棒グラフに記載されているからか。「高齢者世帯の割合」も「うち独居世帯」の棒グラフ内に表示されているから、グラフを2つに分けた方が見やすいのでは。</p>	<p>① 分かりやすい棒グラフに変更します。</p>
5	<p>5-① 21ページから23ページについて、表の順番にあわせて、凡例、棒グラフの表示を統一してはどうか。</p>	<p>① 凡例の表示を表の項目順に変更します。棒グラフの表示について分かりやすいように変更します。</p>
6	<p>6-① 58ページ1行目「・地域福祉活動計画」は「・第1期地域福祉活動計画」正しいのでは。</p>	<p>① 第1期の計画は、第1期とは表記しないのでそのままとしますが、「・福津市地域福祉活動計画」に変更します。</p>
7	<p>7-① 60ページ目4行目、「断らない相談支援」の構築という表記はいかがか。現状において「断っている事例」があるかのようだ。 7-② 同ページ6行目「相談機関」とは何を指すのか。かっこ書きで主な機関名を記述しては。</p>	<p>① 「断らない相談支援」の構築を「包括的に受け止める相談支援体制の構築」に変更します。 ② 「相談機関（行政、社会福祉協議会、地域包括支援センター等）」に変更します。</p>
8	<p>8-① 基本目標の施策の中で、「地域（市民）に期待すること」という見出しがあるが、市民に促す取り組みが大半であるので、「市民（地域）に期待すること」にした方がいいのでは。</p>	<p>① 64ページ以降の基本目標について、「地域（市民）に期待すること」を「市民・地域に期待すること」に変更します。</p>

9	<p>9-① 66ページの施策2で、「全市的（第1層エリア）」、「各郷づくり地域（第2層エリア）」とあるが、いきなり第1層、第2層がでてくるのに違和感がある。 「これまでは第1層エリアとして全市的な取り組みについての話し合いをする場を中心としてきましたが」、「さらに地域課題を解決するために第2層エリアとして各郷づくり地域に生活支援コーディネーターを配置し」とした方が分かりやすいのでは。</p>	<p>① 6ページで圏域の設定をしているので、そのままとします。</p>
10	<p>10-① 69ページの1～3行目が分かりにくい。「異なる属性の主体」が68ページ下から5行目では「多様な主体」とある。「市民共働・公民連携」について肉付けが少ない。「未来共創センター（仮称）」についてイメージがわからない。</p>	<p>① 69ページの文章を以下のとおり修正します。 福津のまちづくりへ参加・参画する多様な主体が互いの立場や特性を理解し、認め合い、共有する目標達成のために、各主体の特性を活かし合った連携型のまちづくりが広がるための支援を行います。そのため、多様な主体間の出会いや交流などの機会を提供し、取り組み支援を行う「未来共創センター（仮称）」の設立を目指します。</p>
11	<p>11-① 69ページの「社会福祉協議会の取り組み」において、最初の項目で「各郷づくり推進協議会と共に・・・」とあるが、各郷づくり推進協議会と地域課題解決に向けた協議」は具体的になかったと思うので、「新たな取り組みを行っていきます。」だと分かるが。</p>	<p>① そのままとします。 福津市社会福祉協議会では、平成31年4月に福津市から第2層生活支援体制整備事業を受託し、各郷づくり推進協議会の福祉部会の会議や行事に、第2層生活支援コーディネーターと社会福祉協議会の地域担当職員で出席し、部会員や地域の方から地域の情報や地域の困りごとの把握に努めています。これまで、自治会や郷づくり推進協議会と共に、サロン活動などの居場所づくりや移動支援、買い物支援、地域のニーズを把握するための調査など、各地域の状況に応じて、各地域で取り組みを進めています。</p>
12	<p>12-① 74ページの「行政の取り組み」の記載順序を、75ページの順序と整合させるため、安心して→虐待防止に関する→虐待防止に向けて→障がい者虐待→児童虐待→DVの順序にしては。</p>	<p>① 74ページの施策6「虐待防止の推進」の「行政の取り組み」の記載順序を75ページの虐待に関する相談窓口の順序に合わせ変更します。</p>

13	<p>13-① 75ページの「虐待に関する相談窓口」について、休みの日や時間外の対応窓口・電話の記載がない。休みの日や時間外対応はしないのか。</p>	<p>① 休みの日や時間外対応等について、分かりやすい表記に変更します。</p>
14	<p>これまで、地域支えあい制度、協議体、小福祉会、民生委員の活動などを見てきた。それぞれに関わる方は一生懸命活動しているが後継者と考えると課題が多いのではないかと。今いる人ばかりに頼ってしまうと、業務の多さから後継に対して躊躇する人もいます。「自助」「共助」も大切だが任せっぱなしになっていないかの確認は必要である。</p>	<p>① それぞれの制度や活動の目指すところは、誰一人取り残されることのない地域共生社会の実現です。そのためには、民生委員・児童委員、小地域福祉会等の地域組織をサポートする包括的に受け止める体制の構築や専門機関によるアウトリーチによる支援により、市民の皆様が様々な形で参加できるような地域づくりを行います。</p>
15	<p>ひきこもりの理由も状況も人それぞれである。相談窓口の充実、支援体制の充実も加え周囲の意識改善が必要。不登校も同じだが、本人や家族を追い詰めない環境が必要である。</p>	<p>① ひきこもりや不登校の原因は様々で、本人やその家族に寄り添った長期的な支援が必要となります。相談窓口や支援体制の充実を図るとともに、誰にでも起こりうることとして正しい理解が広まるよう啓発していくことも重要と考えております。</p>
16	<p>ヤングケアラーに関しては、発見の難しさと当事者が自分が置かれている異常さに気づいていないことが問題だと報道されていたので、どう地域や学校で周知していくかが大切だと思う。</p>	<p>① ヤングケアラーについては、早期に発見し支援につなげることが必要となります。周囲の人が気づき、関係機関につなぐことができるよう、学校や地域全体でヤングケアラーについての理解を深める必要があります。また、ヤングケアラーは複合的な課題であり、課題に対応するためには学校・地域・児童・高齢部門など多岐にわたる包括的な連携体制の構築が重要と考えます。</p>

17	<p>市民に対し、自治会や郷づくり活動を求めることも必要だが、事情があり自治会に入れない方もいる。それでもボランティア活動をしたいという方を受け入れる市民団体などの受け皿もあるといいのではないか。住んでいる場所では活動しにくくても、福津市全域で活動するボランティアとして認められれば活動の域が広がるのではないか。</p>	<p>① 66～67ページ「地域活動の強化」とともに、68～69ページ「市民活動やボランティア活動の活性化」をすすめることとしています。</p>
----	--	--